巨大十二指腸症の一例

昭和34年1月31日受付

(長野赤十字病院外科)
宮沢　信

An Instance of Giant Duodenum

Shin Miyazawa
(Nagano Red Cross Hospital. Sūrg)
(Direktor Dr. T. Suzuki)

緒言

巨大十二指腸症に関する報告は MELCHIOR, DAVIL, 斉藤氏らが行つているが何れも一例報告に止まり，その数は僅少である。たまたま私が経験した本例に就いて聊かの検策を加えて報告する。

症例

患者は13才農家の少女で幼少より順調な発育を経ていたが，12才になつた某日突然に心窩部より右季肋下部に亘る仙痛を覚え，内科受診の結果胃痙攣の診断並びに治療をうけて一時軽快したものゝ，数日後再び同様の症状が生来し，加えて水様胆汁様の嘔吐が頻発，殊に夜間に多くなつている。嘔吐と食事との関係はみられず，吐物は食餌の残渣は少く苦味が強かつたと訴えている。吐物量は非常に多いのが特徴で時には洗面器を一杯にするほどあつた。斯様な嘔吐症状を数日乃至数週の間で繰返し，約一年後幽門狭窄症の疑いで当科に転科している。

レントゲン所見

十二指腸の上部，下行部，下部に亘る異常な膨隆が見られ壁の緊張減退，蠕動減退の為にバリウムの排泄遅延が認められた。即ち十二指腸は恰も小型の胃の如き外観を呈して，上層が空気泡，中層が液体層，下層がバリウム層の三層に分離していた。従つて胃と十二指腸を併せ考えると一個の大き胃，所謂"砂時計胃"を形成している。

手術所見

十二指腸はその上部より次第に厚くなり，下行部に至つて著明な拡張を示し，十二腸球部の直径は約8cm，下部は約5cm，周囲臓器との癒着は認められなかつた。手術々式は十二指腸切除は行はず，単に結腸後胃前壁胃腸吻合術 GASTROJEJUNOSTOMIA RETROCOLICA POSTERIOR を実施した。尚術後経過は良好で17日目に退院，前記の愁訴は消失し満足すべき結果を得た。

考按

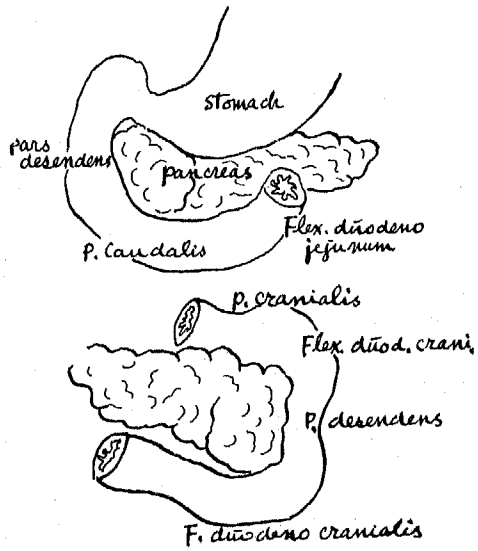
MELCHIOR (1924年) は十二指腸下部或は空腸上部に何らかの認むべき機械的通過障碍があつて，二次的に内腔の拡張を来したものを十二指腸拡張症一次的に，内腔の大きいものを巨大十二指腸症と呼称し，この後者に属するものが DIVAL, MELCHIOR 氏等の先天性畸型説による巨大十二指腸症であるが，一方 KOTLIVIG 氏の主宰神経の機能障碍による後天的略型であるとする説もある。本邦の斉藤真，鳥巣太郎両教授は，後天的略型説に賛意を表している。MELCHIOR 氏の分類によれば，二次的後天的の原因即ち十二指腸の拡張が幽門部の瘢痕性閉鎖不全，或は十二指腸周囲の腫瘍による機械的な圧迫（例へば腸管膜嚢腫による拡張），又術後の急性胃拡張時，血管の圧迫によると考えられる動脈腸管膜性十二指腸狭窄が起る場合などが挙げられる。

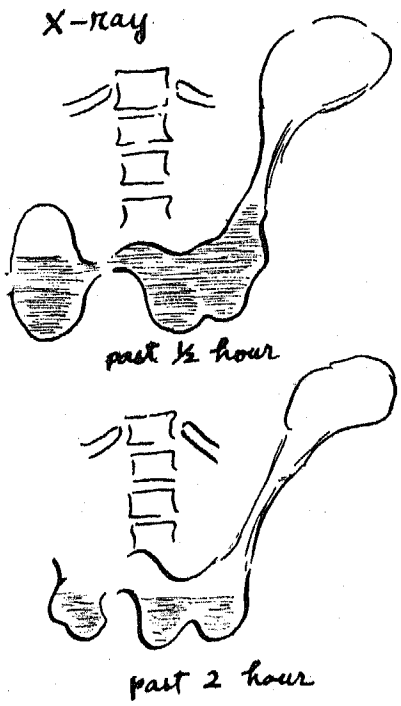
十二指腸に何らの器質的狭窄を来す病的変化がなくて，食餌の停滞及び拡張を示す所謂十二指腸低緊張症 ATONIA DUODENI も本症の誘因になるものと考慮される。

一次的に十二指腸が拡張したものとは異るが，十二指腸周囲の先天的畸型が原因で，二次的に巨大化を招く場合に移動性十二指腸症がある，即ち十二指腸水平部下行部の拡張並びに延長が腸管膜の異常な移動性に由来し，この悪循環によつて長年月間に巨大化を招く結果になる。十二指腸の器質的異常の為，巨大症を来したと思れる幼児例の報告によると，十二指腸空腸彎曲部，乳頭部に粘膜及び粘膜下組織よりなる辨膜の異常形成があつた為だと説明されている。

結語

本症に特有な症状は嘔吐で，一時的ではあるが上腹部に可成り激しい疼痛が到来することがある。嘔吐の程度回数は不安定で，吐出物は水様胆汁様の液体が主成分で食餌の残渣は少いが量が，普通の場合より遙かに多いことが特徴である。上腹部痛は発現当初が最大で，時間を経るに連れ緩和若しくは消失している。こ





の他には充満感，グル音，食思減退などがあり，恰も十二腸指潰瘍或は幽門狭窄の症状と酷似している。

治療法としては保存的療法では殆んど効果が期待できず，手術療法によつてのみ好治験を得ている現状である。即ち胃，十二指腸の一部を切除して胃腸端側吻合術を行い，更にブラウン氏吻合を追加する方法，或は本例の如く単に胃腸吻合術のみを行ふ方法，BALFOUR 氏変法に BROWN 氏吻合を加えたものなどがある。

本稿の要旨は北信医学会（昭26）に於て発表したものである。

終に臨み鈴木外科部長の御指導御校閲を感謝する。

文　献

①岩井：日本放射線学会雑誌　Vol. No. 9, 155, 昭16.　②三木：日本医学中央雑誌　39, 678.　③佐々木：日本医学中央雑誌　77, 327.　④林：日本外科学会雑誌　42, 7.　⑤阿部：東京医事誌　2863, 40, 769.　⑥福井：日本外科学会雑誌　43, 817.　⑦寒川：児科学会雑誌　Vol. 1. No. 5, 昭23.　⑧長谷川：臨床医学　27, 4号, 589, 昭23.　⑨田村：日本中央医学雑誌　44, 485, 昭21.　⑩森口：日本中央医学雑誌　28, 766, 大正15.　⑪竹末：日本中央医学雑誌　74, 419.